も　さくら　　塚本瑞江

いいじゃないか、そんなに力まなくても。そんな感じ。「命をかけて見ずとも　さくら」が、うまい。桜をうたう短歌は、正面から全力でうたうのをよしとするような空気に異議をとなえる一首。

白の中に濃き白淡き白ありて風にふるへる桜の白が　篠田和香子

満開の桜をうたって、微妙なコントラストだけをクローズアップしたシンプルさに注目。上句をうまく受けた下句に工夫を読む。

神主と禰宜のふたりが境内に声交はしつつ鯉のぼり揚ぐ　長嶺恭子

短編小説の一節のような、物語を抱いている文体が魅力。神主は何歳ぐらいなのだろうか。禰宜には男の子がいるのだろうか。読者の想像力が挑発される。

手も足も大きな男だ光太郎の影は銀色麦畑は青　藤田紀美子

岩手県の花巻にある高村光太郎記念館で見た、光太郎の長靴の大きいことにびっくりした記憶がある。写真を見ても分かるが、まさに、手も足も大きな男だったらしい。ところで、高村光太郎のカラー写真はないと思う。とすると、この一首はモノクロの写真を見て色を感じたのか、それとも絵なのか。

叶ひたる夢のごとくにやつてきて待ち続けたる飛行機は発つ　高山邦男

友人の結婚式に出席するためにハワイへ行ったという話を作者から聞いた。その折の作だろうと思う。ハワイへの旅の出発を、あえてファンタジックな雰囲気でうたってみせたアイディア。

言ひたい事のあるだらう霙降る三月寒い佐川さんの靴　塩川郁子

国会で証人喚問を受けた前国税庁長官の佐川宣寿氏のテレビ映像に取材した一首。あえて「靴」をクローズアップすることで、生活人としての佐川氏、家庭があり、靴や靴下を自分で買う、そんな佐川氏を浮かび上がらせている。結局、後になってはっきりしたわけだが、個人として言いたいことは一切言わず、彼は財務省の一員として嘘をつき通したのだった。

バイシクルキックの動画鮮やかに液晶画面を駆け抜けていく　松岡秀明

サッカーの動画である。作者が自分で撮ったものか。ユーチューブとかテレビ局のものかもしれない。いずれにしても、バイシクルキックという普段あまり見られないトリッキーなキックが、印象的にとらえられた一瞬の鮮やかさをクローズアップした。

早朝の光の中のホバリング紅うつぎ観るハミングバード　鵜沢梢

ハミングバードはハチドリのこと。鳥の中で一番小さく、ホバリングすることで知られている。日本には生息しないので、私たちにはなじみのない鳥。この一首、スポットライトを当てたように、ハミングバードだけをクローズアップした工夫に注目。